2022年度　自己評価報告書

学校法人京都南カトリック学園
青谷聖家族幼稚園

1. 教育目標

聖書に基づいたキリストの教えを基本理念として保育している。
育てたい幼児像
・神と人と自然を大切にする子ども
・心も体も健康で明るい子ども
・思いやりと感謝の心を持つ子ども
・主体性のある子ども
・創造豊かな子ども

2. 本年度の重点目標

①食育の充実
　栽培、収穫、調理を子ども達ともに楽しんで行うカリキュラムを構成する。
②園外保育の発展的取り組み
　四季折々の季節を感じながらの公園遊びや堤防歩き。
　周辺散歩や電車乗車体験、買い物体験を通して交通ルールや社会ルールを身に付ける。
③子育て支援活動の充実
　月２回月曜日の園庭、子育て支援室の開放。
　月２回土曜日の施設開放、イベントの開催。
　子育て支援室の環境整備（未就園児向けの玩具の購入、教員による手作りおもちゃの制作)。
④子どもの主体性が育つようなカリキュラムの構成
　“自由な日”（子どもが自分でやりたいことを見つけて、自由に行動できる日）を複数日設けて園児が一日の見通しをもって行動できるようにする。
　行事は園児中心に計画、実行できるようにする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
①	食育の充実	A	・畑の土作りから、苗の買い出し、水やり、草抜き、収穫など野菜作りの一連の作業を体験できた。カボチャとスイカは上手く育たず食べられたものは少しだったので、次年度検討する必要がある。 ・クッキングは収穫した野菜を使って旬を知り、不足分は買い出しに行き食への関心を深められた。 ・お泊まり保育でのカレー作りは、昨年に比べて包丁を持つ機会が増えたのでスムーズにできた。昼食に焼きそば、おにぎり作りも取りいれた。 ・昆布、かつおでの出汁の取り方を学び、味比べも行った。 ・お店屋さんごっこでは、年長児が焼きそば、お好み焼きを作り、年中児はおにぎりを作って本物での疑似販売を経験した。 ・節分では恵方巻を作り、恵方を向いて黙って食べる体験をし、季節行事の理解を深めた。 ◎職員も園児もクッキングの回数を重ねるごとに構えなく臨めるようになり、準備(買い出しなど)から自分達で関わることによって食に対する楽しさ、興味が深くなった。
②	園外保育の 発展的取り組み	B	・昨年に比べ園外保育に行く回数が増えた。 ・堤防歩きやドングリ拾い、昨年までコロナ禍で行えなかった電車乗車もできた。 ・宇治歴史公園など新しい場所も開拓し、年長児は立木観音の階段 800 段を上ることが出来た。 ・昨年も行った木津川運動公園でのスタンプラリーでは、園から公園まで歩いて行き、公園内を 4.5 歳児混合グループで周った。年長児は年中児を連れて行かなければとの自覚が出ていた。 ◎昨年よりも歩くことを増やしたことで、子どもたちの歩くことへの関心が増した。ただ、目標にあげていた電車に乗って色々なルールを身に付けるというで、1 回しか電車に乗ることが出来なかったのは反省点で次年度検討する。

③	子育て支援活動の充実	A	・子育て支援室（ひよこ組）に未就園児向けの新しい玩具を購入、教員手作りの玩具もおいた。 ・月 2 回の月曜日に行っている未就園児の施設開放は、各所においてもらっているチラシなどの効果で少しずつではあるが利用者が増えてきた。制作などの企画を取り入れたが、来園時間や年齢がバラバラで上手く出来ない時があったので、次年度は検討する必要がある。 ・令和 5 年度 9 月から 2 歳児クラスを開設に伴って、ひよこ組（親子登園クラス）を 2023 年 1 月より 2 歳の誕生日を迎えた親子も通えるようにした。現在 10 組以上の登録があり、3 歳になったひよこ組の子どもたちと一緒に親子登園クラスに通っている。何名かは 2023 年 9 月からの 2 歳児クラス入園を考えている方もおられる。 ・土曜日のイベントではコロナ禍でできなかった人形劇や大道芸などで多くの方が来園された。 ◎子育て支援の充実をはかるとともに、園児獲得にも一役買っているので今後も充実をはかっていきたい。
④	主体性の育つような カリキュラムの構成	A	・昨年よりも“自由な日”の回数を増やしたことにより、子どもたちは毎回楽しみにしていて、時間の使い方も上手くなっていた。廃材工作などは時間をかけて出来るので、子どもが満足できるものが出来、普段に比べてクオリティも高かった。自由な日の中で 1 つ課題（絵画）を取り入れることも行ったが先に課題をこなす子ども、後回しにする子ども、様々で面白かった。 ・行事（宿泊保育、運動会、お店屋さんごっこ、おもちつきなど）では、準備や買い物など子どもたちができることは出来るだけ子どもたちでするようにし、行事への関心を高められた思う。 ・全園児の廃材工作の作品を 3 月の参観の時に見てもらう予定で、年齢の違いを見てもらえればと思う。 ◎子どもたちが主体的に行動できるようなカリキュラム（自由な日や保育での子どもの意見の取入れなど）を次年度も取り組んで行きたい。

4　総合的な評価

評価	理由
A	今年度は 4 つの重点目標について、職員会議を重ねることで色々なアイディアが出るようになり、色々な取り組みに挑戦できた。会議にかなり時間をとったが、子どもにとって良い体験の機会が増えたと思う。 食育では昨年よりも畑に関わる時間や食品の買い出しが増えたことで食への関心がより一層深まった。 園外保育では回数も増え、電車乗車もできたが当初の計画よりも乗車回数が少なく次年度はもう少し電車に乗る回数を増やせるといいと思う。 職員が何でも用意するのではなく、出来ることは子どもたちも一緒にすることによって、子どもたちが行事などに関心をもち満足して幼稚園生活に取り組めたと思う。 子育て支援活動の取り組みは園庭解放などの情報をチラシで知らせたり、インスタグラムなどでお知らせするなどして、少しではあるが利用者がふえた。

5　今後の課題

1	食育	学年ごとに目標を設定し、3 年間で出来ることを増やして食への関心をもっと深めていく
2	主体性のある 保育	園児の声を取り入れていく保育を模索 主体的に取り組めない園児へのサポート
3	園外保育	社会体験を通して、ルールやマナーを身に付ける
4	子育て支援 活動の充実	広報活動の強化、地域の人たちに楽しんでもらえる活動の模索 子育て支援からの園児獲得

評価基準　S　特に他の模範となる
A　充分に達成されている
B　達成されている
C　少し改善した方が良い
D　改善が必要